

- 問1 律令制において、中央から派遣された国司のもとで、現地の有力な豪族が任命された役職を何という？
- 問2 大化の改新以降、土地や人民はすべて国家のものであるとした原則を何という？
- 問3 元明天皇が藤原京から都を移し、奈良時代が始まった年号は何という？
- 問4 奈良時代、聖武天皇が仏教による国家の守護を目指して、国分寺の総本山として都に建立させた寺院は何という？
- 問5 郡司が行政に携わった、大宝律令などに基づく国家体制を何という？
- 問6 唐の進んだ政治制度を取り入れ、戸籍に基づき天皇を中心とした強力な国家体制を整えるための法体系を何という？
- 問7 聖武天皇の時代に奈良を中心に栄えた、唐や西アジアの文化の影響を受けた国際色豊かな文化を何という？
- 問8 『日本書紀』で、神代から歴史が記録されている最後の天皇は誰？
- 問9 奈良時代の仏教文化を象徴する建造物で、西アジアの品々も収められている有名な寺院を何という？
- 問10 天皇を中心として、国司や郡司などの仕組みを整えて全国を支配した国家体制を何という？
- 問11 奈良時代、租庸調の税を納める際に、荷物の内容や送り主などを記すために使われた木製の札は何という？
- 問12 743年に出され、開墾した土地を永久に私有することを認めることで、土地の私有化を広めた法律を何という？
- 問13 シルクロードを経て伝わった宝物や唐の工芸品が収められ、現在も東大寺にある施設は何という？
- 問14 東大寺にあり、当時の国際色豊かな宝物が数多く収められている施設を何という？
- 問15 正倉院で見られる、三角材を組み上げて湿気を防ぐ建築様式を何という？
- 問16 人口増加により不足し、開墾のきっかけとなった、政府が農民に与えた土地を何という？
- 問17 律令制において、郡の長として地方の政治を担った有力者を何という？
- 問18 710年、現在の奈良県に建設され、奈良時代の政治の中心となった都を何という？
- 問19 遣唐使の船が日本から中国へ向かう際、多くの遭難者を出した荒れる海域を何という？
- 問20 班田収授法によって、国が戸籍に基づいて6歳以上の男女に分け与えた土地のことを何という？
- 問21 743年に発令され、新しく開墾した土地の永代私有を認めることで、土地の私有化を推進した法律を何という？

答え合わせ・解説

問1	答え 郡司	「郡司」は、地方の行政単位である郡の実務責任者です。かつて地方の有力豪族であった人々が任命されました。都から派遣された「国司」をサポートし、税の徴収や戸籍の管理などの実務を担当しました。
問2	答え 公地公民	7世紀の「大化の改新」によって打ち出された政策です。すべての土地を「公地」、すべての人民を「公民」と定義し、国家が直接管理することを目指しました。これにより班田収授法が成立し、税の徴収が計画されました。
問3	答え 710年	710年、元明天皇は藤原京から平城京へ都を移しました。平城京は、大陸の都にならった碁盤の目状の区画（条坊制）を持ち、宮殿を中心に政治機能が集約された都市です。これにより、天皇を中心とした国家の威信を内外に示すとともに、官僚機構による効率的な統治が可能となりました。
問4	答え 東大寺	聖武天皇の命により、各国の国分寺を束ねる総本山として建設されました。特に本尊である大仏の建立は、当時の国家プロジェクトとして非常に大きな規模で行われました。
問5	答え 律令国家	律令国家では、公地公民の原則に基づき、戸籍を作成して人々に税を課しました。中央では二官八省が行政を担い、地方では国司と郡司が行政の実務を行うシステムが構築されました。
問6	答え 中央集権	唐の律令制度を模範として、戸籍を作成し、国司を地方に派遣して全国を支配する体制を整えました。天皇が全権を握り、官僚を通じて地方まで法律や税を平等に行き渡らせる政治構造です。
問7	答え 天平文化	天平文化は、聖武天皇を中心とする貴族や仏教が主導した文化です。唐の影響だけでなく、シルクロードを通じて伝わった西アジアの文化の影響も強く見られ、国際的で豪華な特徴を持っています。代表例として、東大寺の大仏建立や、正倉院に保管されている宝物などがあります。
問8	答え 持統天皇	日本書紀は、奈良時代の720年に完成した歴史書です。神話の時代から始まり、持統天皇の時代までの歴史を詳細に記しています。中国の歴史書の記述様式を取り入れ、非常に精緻な記録となっています。
問9	答え 東大寺	東大寺は、当時の都である平城京に建立された巨大な寺院です。特に聖武天皇が発願した「東大寺の大仏」は、当時の国家の威信と仏教への信仰心の象徴でした。この寺院の宝物を収める正倉院には、シルクロードを経由して伝わった多くの貴重な宝物が現在も保管されており、当時の国際交流の様子を伝えています。
問10	答え 律令国家	律令国家とは、法律（律と令）に基づき、官僚組織を整えて全国を支配する体制です。中央には太政官などの行政機関、地方には国・郡・里を設置し、中央から役人を派遣しました。この仕組みにより、戸籍を作成して人々に税を課し、中央政府が全国の土地と人民を把握する支配構造を実現しました。
問11	答え 木簡	木簡は主に松や杉などの板を薄く削って作られ、墨で文字が書かれました。これには税の品目や産地、送り主などが記されており、現在の配送伝票のような役割を果たしました。
問12	答え 墾田永年私財法	政府は、743年に「墾田永年私財法」を制定しました。これにより、新しく開墾した土地の私有が永久に認められるようになりました。それまで制限されていた土地所有が可能となったため、人々は競って開墾を行い、生産性を高めようとしていました。
問13	答え 正倉院	聖武天皇が亡くなった際、光明皇后が天皇をしのんで東大寺に奉納した品々を収めた校倉造りの建物です。楽器や鏡、美術品など、当時の国際交流を物語る非常に貴重な宝物が数多く保管されています。
問14	答え 正倉院	正倉院は校倉造という独特の建築様式で建てられ、湿度の変化に応じて木材が伸縮することで内部の環境を一定に保つ工夫がなされています。ここには、天皇の愛用品だけでなく、当時の楽器や文書、世界各地からの貢ぎ物など、天平文化の粋が集められています。
問15	答え 校倉造	校倉造は、断面が三角形の木材を井桁（いげた）に組んで壁を作る工法です。湿気が多いときは木材が膨らんで隙間をふさぎ、乾燥すると木材が縮んで風を通すという、自然の作用を利用した高い調湿機能を備えています。
問16	答え 口分田	口分田（くぶんでん）は、戸籍に基づき、6歳以上のすべての人々に政府が支給した耕作地です。農民はこの田から上がる収穫に対して税（租）を納める義務がありました。しかし、奈良時代に入ると人口が増加したため、国家が支給できる田が足りなくなり、新たな開墾が進められる要因となりました。
問17	答え 豪族	郡司は、国司の指揮下に入り、戸籍の作成や徴税の補助といった行政の実務を行いました。終身制であったため、現地の地盤を持つ豪族たちがその地位を世襲的に継承することが一般的でした。
問18	答え 平城京	710年に元明天皇によって遷都された計画都市です。中国の唐の都である長安を手本にして設計され、整然とした道路が碁盤の目状に配置されていました。政治・経済の中心地として繁栄し、遣唐使などによって国際的な文化が開花しました。
問19	答え 東シナ海	東シナ海は波が荒く、また気象観測技術も未熟だったため、渡航は命がけの作業でした。特に大陸へ向かう際は、季節風や海流の影響を大きく受け、多くの留学生や僧侶が海に没しました。無事に到着できたのは一部の船のみということも珍しくありませんでした。
問20	答え 口分田	6歳以上の男女に対し、戸籍の記載に従って一定面積の口分田を支給しました。農民はその土地で耕作する代わりに、租などの税を納める義務を負いました。土地は私有ではなく、本人が死亡した際には国に返還する決まりでした。
問21	答え 墾田永年私財法	743年に制定された墾田永年私財法は、新しく開墾した土地を一定の条件のもとで永久に私有することを認めた制度です。それまでの「公地公民」の原則を大きく転換し、貴族や寺院による土地開発を促進しました。